

## 山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	肝門部領域胆管癌に対する肝動脈合併切除・再建術の治療成績の検証		
② 実施予定期間	2018年9月1日から2023年3月31日		
③ 対象患者	④の対象期間中に当院で肝門部領域胆管癌に対する肝動脈合併切除・再建術を受けられた患者さん		
④ 対象期間	1997年1月1日から2018年3月31日		
⑤ 研究機関の名称	別添参照		
⑥ 対象診療科	消化器・腫瘍外科		
⑦ 研究責任者	氏名	永野浩昭	所属 消化器・腫瘍外科
⑧ 使用する情報等	年齢、性別、身長、体重、黄疸の有無、術前減黄の有無、術前化学療法の有無、術前門脈塞栓の有無、術前血液検査：血清ビリルビン値、血清アルブミン値、CRP値、ICG15分値、CEA、CA19-9、術式、手術時間、出血量、輸血量、門脈切除の有無、肝動脈再建法、腫瘍サイズ、Bismuth-Corlette分類、脈管侵襲、リンパ節転移の有無、遠隔転移の有無、分化度、腫瘍遺残度、術後在院日数、術後合併症（術後肝不全、Clavien-Dindo分類）、術後治療の有無、治療法、全生存期間、無再発生存期間、初再発部位		
⑨ 研究の概要	<p>肝門部領域胆管癌は、その解剖学的特性から門脈および右肝動脈に容易に浸潤します。門脈合併切除・再建は手術手技の安定や術後成績は非切除例よりもはるかに良好であり、有用性が多く報告されてきています。しかしながら、肝動脈合併切除・再建に関しては技術的難易度も高く、報告例も少なく、その臨床的意義についてコンセンサスが得られていません。</p> <p>本研究では、多施設より得られたデータを山口大学に収集し、肝動脈合併切除・再建を伴う肝門部領域胆管癌症例の術前及び術中・術後因子を後方視的に解析し、臨床的意義について検討を行います。</p>		
⑩ 倫理審査	倫理審査委員会承認日	2018年8月22日	
⑪ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。		
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。		
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。		
⑭ 知的財産権	研究グループに帰属します。		

⑮ 研究の資金源	山口大学消化器・腫瘍外科学の奨学寄附金			
⑯ 利益相反	ありません			
⑰ 問い合わせ先・ 相談窓口	山口大学医学部附属病院 消化器・腫瘍外科 担当者：新藤芳太郎			
	電話	0836-22-2264	FAX	0836-22-2263

別添

研究組織

研究代表者：

山口大学大学院 消化器・腫瘍外科学 教授 永野浩昭

研究参加施設と研究責任者

山口大学医学部附属病院 永野浩昭

大阪大学病院 小林省吾